

令和5年秋外国人叙勲 エチオピア陸上競技連盟会長デラルトゥ・トゥル氏受章

3日、日本政府は令和5年秋外国人叙勲受章者を発表しました。エチオピア陸上競技連盟会長のデラルトゥ・トゥル氏は、スポーツ外交・交流の分野において日本とエチオピアの二国間関係の強化に多大な貢献をしたことが評価され、今回の令和5年秋外国人叙勲において、「旭日小綬章」を受章しました。

2014年に故・安倍晋三総理がアディスアベバを訪れた際、デラルトゥ・トゥル氏はエチオピアの有名ランナーたちと故・安倍総理との会談の実現に貢献しました (<https://japantoday.com/category/politics/abe-meets-ethiopian-running-heroes>)。2019年には、鈴木大地スポーツ庁長官（当時）および橋本聖子東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会担当大臣（当時）とも面会し、東京2020オリンピック・パラリンピックの成功に貢献するため、デラルトゥ氏のこれまでのオリンピック出場経験等について意見交換をしました。

スポーツ交流では、エチオピア人陸上選手のアベベ・メコネン氏（東京マラソン3連覇で日本では有名）を2019年に笠間市の陸上アカデミーのコーチとして派遣する等多大な貢献をしました。

旭日章は1875年に創設された日本政府最古の勲章です。旭日小綬章は、日本と諸外国・諸地域との友好親善の増進に寄与した功績を称え、国際的に顕著な功績のあった者に授与されます。また、受章者の活動に対する国民の理解と支持を促進することを目的としています。